

深発見 歴史文化遺産

まつませんだい

第拾肆回

蘭牟田池と共に生きる

湖面を漂うレア島、貴重な生態系と現代に継承される執念のプロジェクト。そして、岩が語る夫婦愛伝説を紹介します。

薩摩川内には長い歴史の中で起きた物語、育まれた文化が数多くあります。このコーナーでは、数ある薩摩川内の歴史文化の中から、とっておきのトピックスをご紹介します。

火山噴火で生まれた火口湖



▲上空からの蘭牟田池および外輪山

蘭牟田池は、直径約1キロメートル、周囲約3・3キロメートルあり、約50万年から約35万年前に活動した「蘭牟田火山」の火口湖といわれています。

貴重な自然環境と生態系

池の西方と北方岸の一带には、ヨシ、アンペライなどの挺

水植物が群生し、これらの植物が枯れると湖底に堆積し、長い年月で泥炭層になります。この泥炭層の一部が湖底から離れ、水面に浮きます。これが「浮島」と呼ばれ、その数は約300に達するといわれています。



▲湖面を漂う「浮島」

浮島は寒冷地方ではよく見られますが、温暖な地域ではとても珍しく、大正10年(1921

年)に「蘭牟田池の泥炭形成植物群落」として、国の天然記念物に指定されました。また、湿地帯には平成6年(1994年)、国内希少野生動物植物に指定されたベッコウトンボが生息しています。



▲ベッコウトンボ

ベッコウトンボの羽化は、3月下旬頃から始まります。平成17年(2005年)には、ラムサール条約登録湿地になりました。

先人の偉業と執念の掘削

江戸時代、薩摩藩では水田稲作のための水の確保が最重要課題で、人工的な溜池を築くなど

の土木工事が各地で行われました。蘭牟田池の豊富な水を活用するため、寛保元年(1741年)、蘭牟田郷領主は、水田に水を引く工事を命じました。全長380メートルに及ぶ水路のうち140メートルがトンネル。この時代、重機があるわけではなく、すべて人力。15年の歳月をかけ、宝暦4年(1754年)、水路は完成しました。その後、約30ヘクタールの水田開墾も行われ、今も水路とともに利用されています。

池の北東部に水門があり、傍らには水門開通後、寛政12年(1800年)、水門改修工事の際の水神供養碑が残り、当時の関係者の名前が碑に彫られています。

今も語り継がれる竜石伝説

その昔、蘭牟田池には竜の夫婦が暮らしていました。別の女

竜のもとへ行った夫を連れ戻そうと山に登った女竜は里人に姿を見られたため、自ら岩に姿を変えました。妻が気がかりになった男竜は岩になってしまった女竜に反省し謝り続けた伝説が残っています。



▲女竜が岩と化した「竜石」

■文責・問合せ〓社会教育課 文化財G(中央公民館内) 〓(22)7251

薩摩川内市 未来アドバイザー

私たちが考える まちの未来

薩摩川内市 未来アドバイザーが 政策提言を発表

3月17日(金)に川内高等学校で、「未来アドバイザー」が政策提言発表会が行われ、代表8グループが、政策提言を行いました。

※薩摩川内市未来アドバイザーとは…

市は、持続可能な魅力的なまちづくりの推進に当たり、中高生の視点から必要な提案を求め、本市の中学校や高校に在籍する方、希望する方に薩摩川内市未来アドバイザーとして委嘱しています。川内高等学校では、1年生全員を委嘱しました。

※生徒の氏名については、敬称略しています。

運べ駅伝×きびなごソフトクリーム



発表者 中村花、大瀬結希乃、桐野美里、黒木悠那、川野葵央、氏郷史菜、高良笑音、田口りく、濱田鈴葉

問題・課題 若い世代が興味を示し、参加したいと思う事業の企画立案

提案・提言 川内川を使った駅伝。完走した人にコーンの部分がきびなごの形をしたソフトクリームをプレゼント。



女性も活躍する薩摩川内

発表者 濱元泰斗、大見謝恒乃助、桑波田来未、堂元莉心

問題・課題 女性が継続して働ける環境整備 など

提案・提言 中学生以上を対象とした標語コンテスト。新聞や店頭に掲示・ポスターやのぼり旗の設置。



住み続けたいまち薩摩川内

発表者 宇田健吾、小崎爽史、井上智捺、今吉ちよ、菊川颯花

問題・課題 人口流出

提案・提言 就職に悩んでいる人への相談所を設置。地域での暮らしを体験する移住体験など。



商店街が活気のある街に

発表者 岩切瑛信、植之原快飛、土川侑隼、長倉里音、馬立洵

子育て支援のインフォメーション

発表者 松永悠里、古屋徹成、有馬こまち、大山拓斗

川内マルシェ

発表者 村田日葵、徳永一翔、木原颯仁、川越涼

未来世代の環境への責任

発表者 宮後有来々、力武せな、迫田菜々咲、新地愛弥、田島のお

田中市長講評

若々しい提言をいただきました。さまざまな視点から分析を行い、地域の現状の把握・分析に基づいて政策を考えていることが素晴らしいです。本日のような取り組みを通じて、母校や、薩摩川内市に対するふるさと、郷土愛も深まったのではないかと思います。



政策提言発表を 終えて

高校生の視点から、市がより魅力的になる政策提言をいただきました。これからも、市は持続可能な魅力的なまちづくりの推進に取り組んでまいります。

問合せ〓本庁企画政策課 政策G(内線4833)